

「潰瘍性大腸炎手記」 Jeffrey 45歳

2014年4月13日

1) 会社の健康診断

2010年11月ごろ、会社の健康診断の便潜血検査で「陽性」の結果を受け取った私は、精密検査を受けるように会社から指示を受けました。そして検査を受ける病院を5つの病院から選ぶように選択を迫られたのです。2ヶ月前に単身赴任で滋賀に引っ越して来た私は滋賀の病院の知識は皆無でした。そこで鎮静剤を使用し一番楽に内視鏡検査を受けられそうなH病院を選択しました。この選択が後の私の運命を決定したとはこのときには微塵も感じていませんでした。もしこのとき違う病院を選択していたなら今でも薬で抑えるだけの治療を受けていたかもしれません。

2) 潰瘍性大腸炎の診断

2週間後にH病院で内視鏡検査を受けるまで、私は気が気ではありませんでした。癌だったらどうしようと思っていたからです。それまで大便が出たときにそのチェックをほとんどしていませんでしたが、その2週間の間にずっとチェックをしていたら、あるとき小さな血の塊が粘膜とともに便器に浮いていました。心配になった私は即別の大きな病院に診察を受けることにしました。

「近々内視鏡検査を受けるのですね。それなら心配ありません」
私が症状の説明をしている途中でその説明を一方的に打ち切れ、高圧的な態度をとったその病院の先生の話では、余計に心配になりました。何が心配ないのかまったく説明がなかったからです。こうなっては内視鏡検査を受ける日まで待つしかありませんでした。そしてそれから何をして過ごしたのかまったく記憶にありませんが、そうこうしている内によりやうやく内視鏡検査を受ける日がやって来ました。内視鏡検査は約20年ほど前に1回だけ受けたことがありましたが、そのときも血便が出たからであり、しかし原因不明でした。今考えるとこのときから私の病気は始まっていたのかもしれません。

無事、内視鏡検査は終わりましたが、そのときは担当医の方からは「潰瘍が治った

後がありました。結果は数日後に出ます」という説明だけありました。

そしてその結果は数日後、会社から説明がありました。

「潰瘍性大腸炎という病気です。難病に指定されていて大腸がんのリスクがあります」しかしこのとき私にはショックはありませんでした。今までの症状に病名がついたただけだと思っていたからです。逆に、癌ではなくて良かったとホ

ツとした感さえありました。小さい頃から腸の弱かった私は、ことあるごとに下痢になっていました。そしてこの慢性的な下痢の状態が当たり前だと思っていたのです。このとき初めて、これは体質ではなく病気だったんだと認識しました。

3) 潰瘍性大腸炎の治療

私は詳細な説明を聞くためだけに内視鏡検査を受けたH病院に足を運びました。最初はH病院で治療を受ける気はまったくなかったのですが、他のどの病院がいいのかよくわからないし、先生も親切だし、もし何かあれば病院を変われればいいという軽い気持ちで私はとりあえずH病院で治療することにしました。

「アサコールを処方します。特定疾患の申請を行ってください」

私は直腸型の潰瘍性大腸炎で軽症。このときアサコールは新薬であったので2週間以上の処方できないと言われました。よってしばらくは2週間毎の診察と処方とするということで話が決まりました。その後、何回かの診察で、1ヶ月に1回の処方と受診になり何事もなく生活をしていました。ちなみに、私の場合調子がいいときは食事を特に気にせず食べてもいい、調子が悪いときだけ食事制限をすればいい。また調子がいいときでも食べて調子が悪くなった食べ物だけ避けるようにと指示されました。私はラーメンが大好きで、頻繁に食べていましたが潰瘍性大腸炎と診断されてから半年くらいたったときから、特定のラーメンを食べた翌日に激しい下痢を起こすようになり、更にN店のラーメンを食べると下痢の他に熱がないのに、40度の発熱のときのような倦怠感に見舞われるようになり、それが3日間続くようになったのです。しかもどんなに調子がよいときでもその症状が出るようになり、私はN店のラーメンを食べるのをあきらめるようになりました。また外食が多かった私は家の近くの食堂のラーメンもよく食べていたのですがこれでも同じ症状を発症するようになり、さらにこの食堂のラーメン以外の定食を食べても下痢をするようになりました。このようにじわじわと食べれないラーメンの種類が広がっていきました。私は人生の楽しみの1/3を奪われた気持ちでいっぱいになりました。

4) 帯状疱疹の発症

2011年のゴールデンウィーク前のある日、私は胸の辺りに発疹が広がっているのに気づきました。嫁に相談したところ、病院に行ったほうがいいのではないかとということでH病院の近くにある皮膚科専門の病院に行くことにしました。土曜日にその皮膚科に行くと、ものすごく混んでいて、3時間後の診察となりました。いったん家に戻り指定の時間に診察を受けに行くと、初老の少しぼっちゃり気味の先生から帯状疱疹と診断されました。ヘルペスウイルスが神経に住み着き、悪さをする病気だそうです。

潰瘍性大腸炎の治療中でありアサコールとラッグビーを服用している旨を伝えると、痛み止めは一応出すけど、飲まないでください。腸に大きな負担がかかりますと言われました。また、2,3日で痛みが出てきますよという警告を受けたにもかかわらず、まったく症状がなかったので診察を受けた2日後でも私は家で安静にせず家族と買い物に出かけたりしました。しかし、その途中急に倦怠感に襲われ、胸がちくちくするような感じがしました。さすがにこれはまずいと思い、すぐに1人で滋賀に向かいました。もちろん次の日から仕事であったのでそのために滋賀に帰ってきたのですが、このとき私はこの病気の恐ろしさをまったく理解していませんでした。次の日から私は胸が焼けるような痛みで苦しむようになりました。もちろん仕事に行くどころではありません。動いていないときはまだ痛みは少ないのですが、動くときと酷く痛むのです。私はぴくりとも動かないようにしているのが精一杯でした。そして、この病気を嫁から聞きつけた親から電話がかかってきました。

「この病気を甘く見たらあかん。昔は疱疹が帯状に出たときに死ぬって言われてたんやで。絶対安静や」ピシヤリと言われました。それを聞いてビビった私は完全に治るまで会社を休むことにしました。治るのに4日間かかりました。

5) 黒い便

2012年9月下旬頃、形がおたまじゃくしのような黒い便が2回出てしまい、すぐにH病院に診察に行きました。

消化器上部での出血の可能性があるということで胃カメラ検査を受けることになりました。しかし検査結果は「異常なし」。当然私は原因不明という診断結果になると思っていたのですが、最後の先生の言葉に耳を疑いました。

「アサコールのカプセルの色がそのように見えたのだろう」

素人が考えても分かるくらいいくらなんでもそれはありえません。アサコールの茶色ではなくおたまじゃくしの黒色です。石油のような真っ黒な色です。さすがに見間違えません。でも実物を見ていないからそうとも考えたのではと思直しました。釈然としないまま、考えたことは「今度から全部写真を撮って見せよう」でした。

6) めまいと抜け毛

2013年1月下旬頃、めまいが1週間止まらずにH病院の診察に訪れました。実はめまいは以前からちょくちょくあったのですが、すぐに治っていたので気にしていませんでした。また、以前から洗面台と風呂場で抜け毛が大量に発生し、抜け毛に効くというSCALP-Dを使用していたのですが、あまり効き目は感じませんでした。抜け毛に関しては歳のせいだからと思

っていましたのであきらめていたのですが、嫁から「50歳までは耐えなあかん。病院にいったら相談してよ」と言われたので以前に帯状疱疹で診察していただいた病院にいきました。「抜け毛は何をしても抜けるものは抜ける。薬での治療はずっと飲み続けなければならないし、効くかどうかもわからない。しかも1万円/月かかる」と言われたことを嫁に伝えると、「じゃああきらめよう」ということになりました。さて、H病院での診察ですが、症状を話すと先生は薬に関する書物を調べ始めました。私はこの行動が大いに心に引っかかりました。そして、ひとこと「原因はわかりません」家に帰った後、「患者に与える薬のことを完璧に把握していないのか」という疑惑に駆られ、インターネットでアサコールの副作用について調べました。なんと、副作用の項目に「めまい、抜け毛」の文字があるではありませんか。私はその項目を印刷し、H病院に行って「これじゃあないですか」と先生に見せました。先生は「じゃあ薬を変えましょう」と言ってアサコールからペンタサに変更になりました。それから1週間はめまいがあつて「薬のせいではなかった？」と思ったのですが、それ以降、めまいは一度も起こることはありませんでした。また抜け毛もほとんど洗面台と風呂場にたまることはなくなりました。次の診察時、めまいと抜け毛が改善されたことを伝えると先生から「申し訳ありませんでした」とお詫びの言葉をいただきましたが、それでも私の髪の毛は元には戻ることはありませんでした。そしてこのときから芽生えた先生に対する不信感がなくなることはありませんでした。

7) 薬の副作用に対する確認

2013年2月初旬頃、薬の副作用、潰瘍性大腸炎に対する薬の考え方等いろいろな疑問に対する回答が欲しくなり、知り合いの奥さんが通っている潰瘍性大腸炎の権威の先生が勤めるD病院に行くことにしました。この病院では予約が3ヶ月先までびっしりでそんなに待てなかったもので、朝から行って診察の空き時間まで待つ作戦で行くことにしました。朝8時半に到着したのですが、診察を受けたのは6時半。つまり10時間待ちました。しかし私はH病院とのあまりの違いにカルチャーショックを受けました。看護師の方もものすごく潰瘍性大腸炎に詳しいのです。「潰瘍性大腸炎にはどのラーメンが大丈夫でどのラーメンがダメなのか研究した論文があるからその一覧のコピーを渡しますね」そんなものがあるのかとびっくりしました。しかし今その一覧がないようなのでコピーをもらうことはできませんでした。残念です。先生の診察では私は診察を受けに来たのではなく質問があつて来たことを伝え、次々に質問をしました。先生は全ての質問に対し、私が納得できる回答をしていただきました。さらに質問があればいつでも電話をかけてください、ととても親切にいただきました。それで私は治療をするならこういうところで受けるべきだと思いましたが、それは非現実的でした。滋賀の家からの距離がネックでした。通える距離

ではなかったのです。

8) 潰瘍性大腸炎の悪化

2013年3月中旬頃、会社の要請のための定期的内視鏡検査で、私の潰瘍性大腸炎が悪化していると診断されました。去年の定期検査では「よくなっているところと悪くなっているところがある」という結果でしたが様子見ということで、引き続きアサコールを服用していましたが、1月下旬にペンタサに変更したせいなのか、それに関係なく病状が悪化してしまったのかそのときにはわかりませんでした。「ペンタサ注腸を使ってみましょう。これで薬が直接患部に届くようになります」ペンタサの飲み薬とペンタサ注腸で治療することになりました。始めは週1, 2回でいいということでそのようにしていましたが、下痢の症状が続いていたので毎日ペンタサ注腸を使用するように指示されました。それで一時期は収まっていました。

9) 慢性の下痢と下血

2013年6月17日頃から、慢性の下痢と下血が続くようになりました。2週間続いたので21日と28日に受診をしにいきました。21日にペンタサの量を増やしたのですがそれでも止まらなかったもので、ついに以下のことを言い出しました。「あまり使いたくないが、ステロイド注腸を使いましょう。後、イムランを処方します」「ステロイド注腸は長期に渡って使用すると中毒になります」「潰瘍性大腸炎とリウマチは免疫が自分を攻撃するという点では同じ原因です。ただ場所が違うだけです。イムランはその免疫を抑えて、攻撃を少なくします」私はこの説明に激しく抵抗感を覚えました。免疫を抑える？おかしいのではないか？実は22年ほど前、学生のとくに風邪が1ヶ月以上治らずに休みがちになっていた私を心配した大学の教授が東洋医学の病院に入院するように手配していただき、そこで断食療法を行ったのです。効き目は想像をはるかに超えるものでした。まさしく生命あふれるのが実感できるような状態になり、同級生からは「髪の毛が増えたよ」と言われました。そこで学んだことは人間の免疫力が病気を治し、生命力を高めるというものでした。しかし「もうこれしか薬はない」「イムランで治療している患者さんも大勢いる」という説得にしぶしぶ使うことにしました。このとき私はステロイド注腸の方が強力な免疫抑制剤であることを知らなかったのです。

10) ステロイド注腸とイムランによる治療

インターネットで調べてみると確かにイムランで治療して何年という方がいました。私はステロイド注腸とイムランを使用するしかありませんでした。し

かし、ものすごい吐き気が起こるようになり、7/3に吐き気があるのでイムランを中止してもいいかを聞きに行きました。すると先生は信じられないことを口走ったのです。「それは思い込みでなっている。今イムランを中止しないほうがいい」私がいくらイムランの副作用で吐き気が起こっているといっても聞き入れてくれません。あきれてしまった私は、すぐに家に帰り、インターネットでイムランの副作用について調べました。「イムランの主な副作用には、食欲不振、吐き気、嘔吐などがあります」と思いっきり書いていました。一方ブログで「始めは吐き気があるが我慢するとそれは収まる」という書き込みがあったので我慢して服用していました。しかし7/5も相変わらず吐き気が止まらなかったため、イムラン中止を再び訴えに行きました。血液検査の結果を見た先生は「血液検査の結果は異常なしだけでも、そんなに言うならイムランをいったん中止しましょうか」しかしイムランを中止しても1週間、吐き気はおさまりませんでした。

11) ステロイド注腸の中止

2013年7月10日、少量の血尿が出たためH病院を訪れました。もちろん写真を撮っていました。写真を見て先生は確かに血尿ですねと認められたけれども、尿検査の結果異常なし。そこでまたもやとんちんかんな説明を受けることになりました。「スポコン漫画で特訓をして血尿が出たりしてるシーンがあるでしょ。激しい運動をして筋肉が壊れて出るミオグロビン尿です」

激しい運動をした覚えのない私はそれはないと否定しました。

そもそもステロイド注腸を使用している為、通常では放っておく少量の赤い尿にも過敏になって病院に来たので、その原因を早く取り除きたく思い、来週の水曜日に受けることになっている内視鏡検査を今週の土曜日にできないかと尋ねました。「土曜日は患者さんが多いから私の体力が持たない。今日は患者さんが少ないので今から検査しましょう」

このときすでに下痢、下血はなく調子よくなったので私は二つ返事で、内視鏡検査を受けることにしました。今回は鎮静剤なしで内視鏡検査を受けました。先生は内視鏡検査がとても上手で検査中不快感はあまりありませんでした。私の腸の映像がスクリーンに映し出されました。ステロイドが劇的に効き、以前に潰瘍があった場所が全てきれいに治っていて血管までも再生しているくらいピンク色になっていました。「よかった、本当に良かった」先生はとても喜んでくれました。しかし私は心の中でまったく違うことを感じていました。

「しかしこれは100%再燃する」こう思っていたのには理由がありました。

10) のときからすでに病院を変えることを心に決めていた私は少し前からネットでいろいろな情報を検索し、その折に潰瘍性大腸炎が完治したという方の複数のブログを閲覧し、潰瘍性大腸炎は完治する病気であるということを知っていたのです。

ネットでの情報はデマが多いと考える方もいらっしゃるかと思いますが、一番信用できないのが例えばこのサプリメントが効きましたなどとお金がかからなかった場合です。しかし大抵の場合、そのブログを書いた人が得をしないのにもかかわらず、その情報を発信している場合で、ブログの内容、例えば自分が病気でないとわからない情報など、こと細かく書かれている場合には信用できると判断できます。またそういう方は治療するためのものすごい情報量を持っていてそれを惜しげもなく公開していますので、偽者との違いがよく分かります。最近では結構松本医院で治療を受けた方のコメントも見受けられますね。さて、100%再燃すると思った理由ですが、私が信用したブログでの情報で「完治する方は1回目の発病で完治するパターンが多いが、再燃された方は、繰り返し再燃し完治しにくい」とありました。そして私は1回再燃しているからです。このことはさておき、やっとステロイドを中止することができてほっとしていたのですが、なんと先生は中止していたイムランの服用を再開するように強く勧めてくるではありませんか。昨日やっと吐き気がおさまったばかりの私は、全力でそれを拒否しました。同時に「このままでは一生薬づけにされて殺されてしまう」と本気で思い、死への恐怖感から背筋が凍えるような感覚に陥りました。とりあえず、ペンタサとペンタサ注腸で様子を見るということになりましたが、私はこの時点でもうこの病院に行く気はありませんでした。

12) 松本医院の発見

2013年7月13日、私は以前に質問をしに行ったD病院に病院を変更したかったのですが、距離の問題から嫁からの反対を食らい変更する病院をどうするかで途方にくれていました。そしてこうなったら何年掛かるかわからないけど自分で治そうと考えていました。完治した方の共通点は、

- a) 薬を使っていない
- b) 血液がきれい
- c) 食べ物のこだわり

の3点でした。そのヒントを頼りに自分に合いそうなものを片っ端から試してみる。この方法しかありませんでした。他にヒントになるものがないかとさらにネットで検索しているときに見つけたのが松本医院でした。私は最初強烈に西洋医学を批判している文面を見て半信半疑でしたが、病気の原因、完治の方法などの理論的な説明があり、とんちんかんな説明にうんざりしていた私には目からうろこでした。しかも「病気は自分の免疫力で治す」という22年前に学んだことと同じ思想が書かれているではありませんか。さらに運が良かったことに私の家から電車で30分で通えるところにあります。今のH病院と大差のない時間です。自分で治すよりかなり心強いので、当然私は7/17に松本医院に行くことをすぐに決め、嫁にもそのように伝えました。

13) 松本医院での診察

2013年7月17日、9時半前に高槻駅に到着した方向音痴の私は別方向に行ってしまう、迷ってしまいました。頼りにしていたiphoneのマップアプリが上手く動作しなかったのです。仕方がなく医院に電話をかけ、無事に到着することができました。医院に入ると思ったより患者さんは少なく、受付では最初に今まで服用した薬の種類と量を記載する用紙を手渡されました。何年も前のことで、しかも途中で薬を変更していたため、思い出すのに苦労しました。記載してみると改めて大量の薬を飲んでいてことを認識し、ぞっとしました。最後に先生の理論を理解しているかという問いには、一部理解してしない（だったかな？）にマルをしました。あれからずっと松本医院のHPの手記と理論を読んでいましたが、大体の理論は理解しているものの、先生が「少し難しくなりますが、」と言って免疫の詳細な説明の部分が理解できていなかったのも、理解しているにはマルをしませんでした。大体の理論を理解している場合は、右端の理解しているにマルでいいようです。さて、私は先生に会うのを楽しみにしていました。あの理論を考えた人はどんな人だろう、世の中にはすごい人がいるものだと思っていたからです。私の名前が呼ばれ入っていくと、そこには若い先生が座っていました。先生の息子さんが医者になっていたのです。松本先生に診察していただけるとばかり思っていた私はすこし面食らいました。しかし松本先生にも途中で私に話しかけていただき、何度も握手をしていただきました。私は今までの経過を簡単に説明しました。ラーメンを食べるとひどい下痢を起こしさらに40度の熱が出たような倦怠感に襲われることを説明したとき、先生は「～病だ（名前喪失）」とおっしゃいました。どうやらこれも薬の副作用でなっていたらしいのです。そして、今まで使用していたペンタサ、アサコールは全て免疫抑制剤であるということの説明していただきました。私はそういう認識がなかったのでびっくりしました。「ストレスを受けているときには発病しない。ストレスから開放されたときに発病する」若先生（松本先生だったかな？）からそう説明があり、まさしく私の経験の感覚にピタリと一致し、さらにびっくりしました。診察が終わった後、診察室の部屋を出ようとしたとき、漢方風呂の使用法などの説明のために呼び止められました。そして看護師さんは言いました。「今、血液検査の結果を出している途中だけど、あなたそんなに悪くないので早く治りそうですよ」その言葉にウソはありませんでした。

14) 独自治療の開始

松本医院での診察後、私は本気でこの病気に取り組む決意をしました。「自

分の病気は自分で治す」というもう1つの意味は自分でも治す努力をするということです。私は病院任せになっていた過去の苦い経験を反省し、自分で出来ることをしてみることにしました。そこで本やネットで勉強をした結果から、私が考えたもっとも重要なことは血液の浄化を行うという結論に達しました。今までの偏った食生活のために体内に溜まってしまった毒素をすみやかに排泄し、血液をきれいにしなければ治りが遅くなると考えました。なぜならリンパ球などの免疫は血液に乗って運ばれるからです。これがもっとも威力を発揮する環境を整えることが治癒の第一歩であり今の私にできることであると考えました。そしてこのときから私の生活は一変しました。

15) リバウンドとアトピー

治療開始のわずか3日目、私は下痢をするようになりました。これがリバウンドなのか半年間肉を一切食べていなかったのに食べ出すようになったからなのかそのときは判断が付きませんでした。下痢は治ったり治らなかつたりして2週間続きました。そして、下痢が収まったその後に足の付け根から発疹が出るようになりました。発疹は両足と前の骨盤まで広がり、両脇のあたりにも出ました。アトピーのイメージと程遠かったので、インターネットで調べてみると「左右対称に出る発疹はアトピー」だそうで、これもアトピーと認識しました。これも2週間で完全に消えました。先生の理論どおりのことが私の身体の中で起こったので、この時点で私は完治したことを確信していました。

16) 最後の診察

2013年8月20日、私は完治した診断をしてもらおうと再び松本医院を訪れました。「しばらく経ってリバウンドが起こる人もいるから後1週間漢方を出しておくよ」私はそれなら2週間分出して欲しいと頼みました。そして後2週間漢方、お灸、漢方風呂を続けることになりました。しかし漢方の方は、食前薬のみになったので煮出す手間が半分になり少し楽になりました。そして何事もなく、2週間が過ぎ私は9月4日に電話でその報告をしました。ステロイドまで使ったというのに実質1ヶ月（リバウンド2週間+アトピー2週間）というあまりに早く治ったことに先生は「始めから潰瘍性大腸炎ではなかったのではないのか」とまで言われました。そして先生は心配してくださり「いったんこれで終了です。リバウンドが起こったらすぐに来て下さい」

しかし私はもう二度とリバウンドが起こることはないだろうと思いつつ、次に起こるとしたら新しい化学物質が身体の中に取り込まれ、長期に渡り耐え難いストレスを受けない限り、また発病は起こりえないだろうと思っていました。ちなみに完治の判断基準として「便秘気味になる」というのがあります。45年

間で便秘気味になったというのは記憶がないにもかかわらず、確かに私は15)で完治を確信したとき便秘気味になっていました。

先生が手記に書いて欲しいとおっしゃっていたので付け加えておきます。

17) 完治の証明

2013年9月14日、私は1年半ほど前に腸の調子が良い状態で食べたのに次の日から酷い下痢を起こし、「もう二度とラーメンは食べない」と叫んだことのあるP店のラーメンを家族で食べに行きました。今までの経緯を良く知っている嫁からは「そんなもの食べたら死ぬで」と言われましたが、無謀にもから揚げ定食（ラーメン付き）を注文し、食べ終わった後、帰る途中の車の中で嫁が言った言葉は「いつもは食べた後に必ずトイレに行っていたのに今回行かなかったね」でした。その言葉を裏付けるように私はいつもの癖でどこにいてもトイレのある場所は無意識のうちに確認していました。しかし今回は必要ありませんでした。さらに別の場所に行き、子供が残したアイスを半分食べてから家に着いたとたん、子供たちが争ってトイレに行っていました。私はいつものようにトイレ争いに参加（いつも1番に行きますが）しませんでした。自分でも驚きました。そして次の日、私のお腹はびくともしませんでした。

2013年9月21日、私は食べると次の日に100%下痢を引き起こし、40度の発熱もどきの倦怠感が起こっていたN店のラーメンにチャレンジしました。さすがにほんの少し不安はありましたが、ひさしぶりに食べたN店のラーメンはおいしかったです。発病前は頻繁に食べにっていたのに。次の日でも私のお腹はびくともせず、逆に便秘気味になっていました。健康ってすばらしいと思いました。

18) 最後に

「そんなものを食べてはいけません」と最初の診察で若先生に言われたことを昨日のこのように思い出します。

そんなものとは何か。私は単身赴任であるのでよしけいの冷凍弁当をいつも購入し、食べていたのです。これが潰瘍性大腸炎になった一因であったと思っています。冷凍弁当には長持ちさせるために、防腐剤などの添加物がたくさん入っているのです。つまり添加物＝化学物質です。それ以来私は冷凍弁当を一切止め、スーパーで販売している弁当も購入しないようにしています。

これにも添加物がたっぷり入っているからです。コンビニの弁当なんか論外です。もう1つは、私は文中に「完治」という言葉を使っていますが、本当に完治したかどうかというのは誰にもわからないのです。なぜなら「完治」とは死ぬまでその病気で再燃が起こらないことであり、再燃しなかったということを実証するにはその方が亡くなるまで見届けて初めてわかることだからです。理論+実際にどうかということが一致して初めてほぼ間違いないと

言えます。しかし少なくとも3年間、再燃していない方をブログで確認できているのでこの言葉を使っても問題ないと判断し、使用しています。

また、私は潰瘍性大腸炎になりいろいろなことを経験し、学びました。そしてもっとも大きな収穫は以下の通りの気づきです。

病気は、将来このままではもっと大きな病気になってしまうという身体からのSOS信号です。そういう意味から私が潰瘍性大腸炎になってしまったのは必然だったのです。限界を超えたストレスがかかるなどの無理な生き方をし、高カロリー、高たんぱくなどの偏った食事をすることで過剰摂取による血液の汚れを生み出し、運動不足や身体の冷えにより免疫力の低下を招き、じわじわと私の身体は確実に蝕まれていきました。このまま行けばいつか、ガンなどの大きな病気にかかり、何の疑問も持たずに3大治療を受け、もともと体力のない私は免疫に大ダメージを受け、短期間で帰らぬ人となっていたでしょう。

今では気づきをもたらしてくれた潰瘍性大腸炎に感謝しています。

最後に松本医院での治療を検討されている方のために、私が考える松本医院でのデメリット/メリットについて記載します。

デメリットについて（標準治療との比較）

- a) 費用が掛かる
- b) 多少難しい知識の理解が必要
- c) リバウンドがある
- d) 家族の理解と協力が必要
- e) 1日の治療に時間を要する

順に解凍していきましょう。

a) 費用が掛かる

標準治療では特定疾患での申請をされている方なら薬代は無料ですので、基本月1回程度の診察代のみです（しかも私の場合ですが上限5770円つき）。しかし複数の手記でも述べられている通り、松本治療では費用がかさみます。漢方薬、鍼灸、漢方風呂は漢方薬の一部を除いて保険が効かないからです。漢方薬は1袋分保険が効き、追加の2袋は保険外です。これは通常の3倍の量の漢方薬を処方されるからです。

また松本医院に行くたびに、鍼灸を1回受けるように言われますので、これが1回4000円かかります。また、さらに家でもお灸をするように指示されますので、このお灸代が600個で8000円くらいです。そして特に初回は紫雲膏（赤い薬）と中黄膏（黄色い薬）も処方され、血液検査があり、要望または先生の判断により抗ヘルペス剤が処方されるからです。抗ヘルペス剤は現在1週間分であっても保険が効きません。そして5000円以上します。昔は1週間分だけなら保険が効いていたことがあったことが、松本医院に行くと手渡される冊子を読むとわかり

ます。ではなぜ今は効かないのか。私は先生に質問しました。「わしは医療界ではにらまれているからな」という予想通りの答えが返ってきました。掛かる費用は初回は月4-5万、次からは3万くらいでしょうか。私は2ヶ月間の治療のため、特定疾患の病院に松本医院を追加する手続きが完了する前に治癒してしまったのでその点の影響はわかっていませんが、それがあればこの費用はもう少し安くなるかもしれません。

b) 多少難しい知識の理解が必要

これは松本先生の理論を理解するということです。必ず必要なことです。なぜなら治療する上でのリバウンドを乗り越えるため、これを知っているのと知らないのとでは心の余裕度が違うからです。14) では私はすでにできていたので書きませんでした。が、「絶対に治る」と信じることはとても重要です。なぜなら潰瘍性大腸炎は心の病気だからです。ストレスを受けない考え方をすることが治療の第一歩です。

また、理論の理解が困難な原因は、言葉の意味がわからないからだと思います。1つ1つ言葉の意味を調べてください。そして何回も読めばなんとなく分かってきます。またさらに理解するためにNaokiさんのブログを参考にするといいでしょう。5/29のブログで図解入りで分かりやすく解説してくれています。googleで「潰瘍性大腸炎 Naoki ブログ」で検索です。(Naokiさん本人の手記の中にURLがありますね)

c) リバウンドがある

これが最大の難関です。これにより治療を断念した方もおられるようです。つまり今までかかった1) での費用も無駄になるということです。しかし、これは松本医院の治療が本人にとって合わなかったということでありその後本人が西洋医学の治療を選んだとしても、それが間違いであるかどうかというのは本人が決めることです。本人がそれで納得しているのであればそれが正です。松本医院で治療を受けようと思っている方はこういうこともあるということを納得した上で診察に来るべきです。

d) 家族の理解と協力が必要

私は単身赴任者ですので1人で松本医院に行きましたが、できれば家族と一緒にいった方がいいです。私は1人で行ったことを後悔しています。一緒に行くと説明を受けたほうが、家族の協力を受けやすいです。金銭面でもそうですし、特に漢方風呂はお風呂が汚れるので始めは私の家族に拒否されました。そして「治った」と言っても家族は半信半疑です。これは本人でないとわからない感覚です。説明が難しいですが、緩解状態では「不安定」現在の状態が「安定」という感覚でしょうか。体質と思っていた下痢は実は体質ではなく、病気であったということがよくわかります。しかしお腹がはち切れる程食べたときに2回

下痢になりました。これが本当の体質の部分であったのだと思えるようになりました。

e) 1日の治療に時間を要する

標準治療ではコップに水をいれて薬を飲むのとペンタサ注腸を使用している方は治療に掛かる時間はトータルで10-15分くらいでしょうか。

しかし松本治療ではそれより時間を要します。漢方薬を煮出すのに、食前薬で40分（2日分）、食後薬で40分（2日分）かかります。始めはこの後始末が大変でした。大変なのは漢方薬を煮出した後の薬草の後始末です。最後は、お茶だしパック（フィルターパック）に漢方薬を入れて行っていました。これで後始末がぐんと楽になりました。また、お灸は始め1時間くらいかかっていました。これも最後は足とお腹のお灸を同時に行えることに気づき、30分に短縮できました。漢方風呂は2回30分煮出す必要があり、これも準備に時間がかかります。そして私は週1で2時間浸かっていました（医院の指定は週2回）。私は軽症だったので自分の勝手な判断で週1しかしていませんでしたが、症状の酷い方は医院の指定どおりにした方がいいと思います。

メリットについて（標準治療との比較）

- f) 将来的に費用が0になる
- g) 好きなものを食べられる
- h) 先生直通の携帯電話番号を教えてくれる
- i) 電話での診察も可
- j) 苦しい検査がない

順に解凍していきましょう。

f) 将来的に費用が0になる

a)で費用はかかりますが、完治すると当然病院に行きませんので、ずっと治療費は0になります。

これが現在の今の私の状態です。

今年特定疾患の費用は見直しがされ、実質値上がりはしますが、将来には特定疾患からはずされる可能性もありますし、西洋医学の薬はそのうち効かなくなりますので最後は腸の摘出となった場合でも病院には通院が必要です。費用は掛かります。そのことを考えてもこれは非常に大きいです。

g) 好きなものを食べられる

潰瘍性大腸炎の方で食事制限をされている方が多くおられるとどこかのブログで見ましたが私もその1人でした。

松本医院では何を食べてもいいと言われます。私は食事治療もあわせて行ったので好きには食べていませんでしたが今は、好きに食べています。ラーメンは食べまくりです。但しお腹いっぱい食べるのは避けています。その理由は治癒してからこれまで2回お腹いっぱい食べてお腹を壊したことがあるからです。しかし1回目のトイレだけで2回目から通常便となっていました。少なくとも2,3日40度の熱が出たような倦怠感が現れ会社を2,3日休むということとはなくなりました。それだけでも値打ちがあります。

h) 先生直通の携帯電話番号を教えてください

西洋医学の病院では担当の先生個人の携帯番号を教えてくださいはありません。しかし、松本医院では休日で緊急のことが起こったとしても対処できるように松本先生の携帯の番号を教えてくださいてもらえます。これは使用しないとしてもかなり心強いし、安心感があります。

i) 電話での診察も可

西洋医学では定期的に通院する場合に、以前と変わりがなかった場合にでも基本的にその病院に行って診察を受けなければ薬を処方してもらえません。一方、初診以外では松本医院では電話での診察も可となっており、しかも電話での診察を優先的に受け付けてくれるため患者は以前と変わりが無いが漢方薬などを追加で欲しいだけの場合には医院に直接行くか電話で診察を受けるかという選択をすることができます。私は電話での診察は1回だけしましたが、直接医院に行くよりもかなりの手間を省くことができます。

i) 苦しい検査がない

潰瘍性大腸炎の治療は、西洋医学では必ずと言っていいほど、内視鏡による検査で判断されます。しかし内視鏡検査ははっきりいって受けたくないと言う人がほとんどではないでしょうか。二フレックスも飲みたくないし、内視鏡自体も炎症が強い人ほど痛いですから受けたくないのは当たり前です。しかし、西洋医学の先生はことあるごとに「内視鏡検査をしましょうか」と平然と言い放ちます。一方、松本医院では、基本的には内視鏡検査を行いません。(頼めばしてもらえたことがどこかの手記で読みましたが) 行うのは血液検査だけです。

19) 松本先生へ

潰瘍性大腸炎になり、もう一生ラーメンを食べられないと人生の1/3の楽しみを奪われた気持ちでいっぱいでしたが松本先生のおかげで、その1/3の人生の楽しみを取り戻すことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

松本先生、医師になっていただき、松本理論を完成していただき、高槻で開院していただき、本当にありがとうございました。

このどれかが欠けていても2ヶ月という短い期間で私の潰瘍性大腸炎の完治はなかったと思います。

あの2年半の西洋医学での治療はなんだったのだという風にさえ感じています。また松本若先生、スタッフの方々にも感謝の意を述べたいと思います。

P. S.

一番のメリットは、もしまた潰瘍性大腸炎を含む膠原病になっても、松本医院で治療すればいいので安心できるということです。

一番のデメリットは、怖くて西洋医学の病院に行けなくなることです。

最後まで読んでいただきありがとうございました。

	13/06/22	13/07/05	13/07/17	2013/8/120
IgE (IU/mL)			23	
CRP (mg/dL)	0.03	0.06	0.05	0.05
血沈			6	5
好中球 (%)	64.6	56.7	57.5	45.6
リンパ球 (%)	27.1	37.4	36.5	37.2





